

[5] 研究開発単位IV「GLOBAL STUDIES」

(1) 6つの資質・能力を育てる授業改善の取組

このプロジェクトは、中学高校の各授業の中で、本校の定める資質・能力を向上させ、未来航路やSOZAN国際塾での取組の基礎を作ることを目標としている。学校全体で育成する6つの資質・能力を各教科に落とし込み、到達度目標を記した「SOZAN Global Can-do List」を作成した。この中で各教科の「目指す生徒像」を設定し、日々の授業に落とし込み、このリスト活用しながら、生徒側・指導者側両方のPDCAを確立していく。これらのことを達成するため、次の①～⑥を行った。

①「SOZAN Global Can-do List」の活用

各教科主任をメンバーとし、リストを活用した授業実践を行い、指導と評価の一体化を目指した。

②中高の統一テーマの設定

4月に、取組の目標となる中高の統一テーマを次のように設定した。

幅広く深い教養を有し、自ら課題を設定し、その解決のためクリエイティブに思考し、ダイナミックに行動するグローバル・リーダーの育成に向けた取組
～SOZAN Global Can-do Listを活用した指導と評価の一体化～

③アドバイザースタッフによる指導助言

6つの教科でアドバイザースタッフを大学にアドバイザースタッフ(全7名)を依頼し、1年を通じて、授業改善に向けた指導をしていただいた。

④研究計画書の作成

各教科の取組が計画的な取組となるように、5月初旬に各教科が「研究計画書」を作成し、1年間を通して計画的に取り組めるようにした。

⑤「岡山操山中学校・高等学校教育研究会」の開催

取組の成果を公表する場として、11月を中心として6つの教科が中高の授業を外部に公開した。校外より計65名(アドバイザースタッフを含む)の参加があった。この研究会の開催により、研究成果を外部に発信できたばかりでなく、外部参加者を含んだ研究協議により、新たな課題を発見するとともに貴重なアドバイスをいただき、研究を深めることができた。

⑥研究紀要「操山論叢」の発行

6つの教科の研究成果を研究紀要「操山論叢」にまとめ、年度末には県内の教育機関(岡山市内の中学校、県下の高等学校等)に配付して、研究の成果を普及する予定である。

(2) 各教科の実践(研究授業)

①国語：11/13中：自分の意見文に対する友達の文章を読んで、より説得力のある意見文に書き直す。

11/18高：短歌に表現された世界や心情を読み取り、その作品に対する返歌を学習者自身の体験や思い出を通じて創作する。

②地歴公民：12/20中：アメリカ合衆国の旅行計画を通して、特色をまとめる。

11/10高：室町幕府全盛期の3代将軍足利義満が作った幕府の仕組みや目指

した支配のあり様はどんなものだったかを探る。

③数学：11/22中： $\frac{7}{2}$ 角形， $\frac{7}{3}$ 角形の場合，中心から各頂点を結ぶ補助線を引くと，内角の和はどのように求めることができるのか説明する。

高：多面体を切断してできる正多角形，正多面体および半正多面体を見だし，それぞれの条件を満たすことを根拠を持って説明できる。

④理科：10/24中：食酢中の酢酸の量を調べる。

高：共有結合の特徴を理解し，電子式を書くことができる。

⑤保健体育：10/27中：バレーボール；相手のいないところのボールを「落とす」ためにどのように組み立てるか，チームでアイデアを出し合っ，ゲームの中で工夫する。

⑥芸術（音楽）：11/10 高：テーマに沿ってオリジナルのメロディを作る。

⑦英語：6/21高：自分たちで調べた lower-skilled job と higher-skilled job の定義と授業内容から，これから必要な資質・能力を考え表現することができる。

11/22 中：発表；互いに質問やアドバイスをしてよりわかりやすい発表になるように改善する。

高：犬の品種改良が行われてきた理由と品種改良のよい面について理解できる。

（3）英語力を向上させる取組

教科のテーマを「技能と教養をバランスよく伸ばす指導法の研究～生徒の振り返りを活用した授業改善」と設定し，英語科の統合技能 Can-do List「SACLA」と「SOZAN Global Can-do List」の活用，中高接続を意識した授業実践の公開，学習者と授業者のPDCAの確立を目標として次の取り組みを行った。

①学習者の自己評価シート(Achievement Check Sheet)の工夫と改善

学習者のPDCAを確立するために，各レッスンの終わりに，レッスンのテーマを使って活動を行い，そのパフォーマンスを自己評価する時間を全学年で実施した。自己評価シート(Achievement Check Sheet)をより簡潔にし，技能と資質がバランスよく測れるシートの作成し，学習者の到達度をみながら活動内容を考える下地ができた。

②自己評価シートの自由記述を活かした授業改善

自己評価シート(Achievement Check Sheet)の自由記述から生徒の変容を読み取り，GTECの技能評価とどのような関連性があるか考え，各年次での目標をはっきりさせた。

③GTECを活用した技能面での客観的な指標による評価

客観的な指標としてGTECを用いて4技能評価を行っている。3年生は6月，1・2年生は12月にGTECを実施し，数値的な変容をみた。